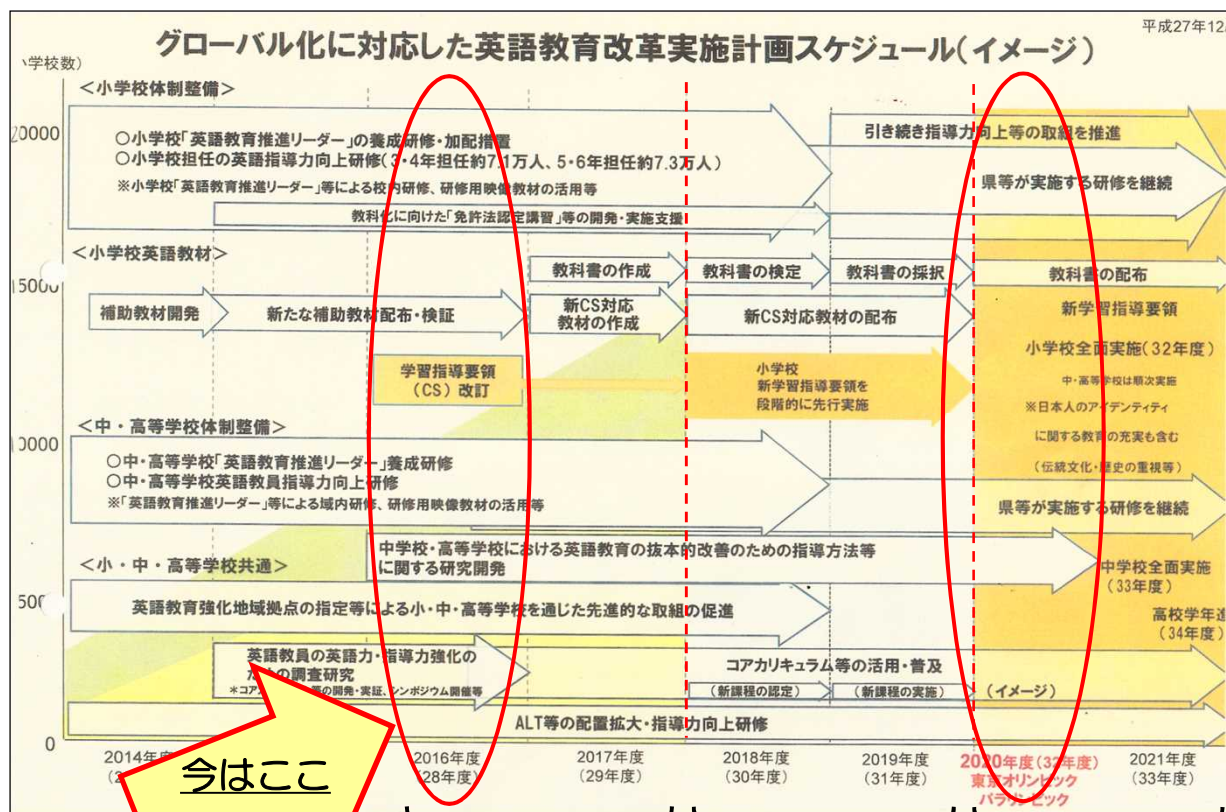




ー5・6年英語教科化, 3・4年外国語活動実施を見据えてー

小学校5・6年英語教科化と3・4年外国語活動実施(2018年度より移行措置)に向けて, 具体的なイメージをもちましょう。

グローバル化に対応した英語教育改革実施計画スケジュール(イメージ)



5・6年で外国語活動

移行措置期間

5・6年で教科,
3・4年で外国語活動

28年度の1・2年生が

3・4年生の時に移行措置

5・6年生の時に教科化

新学習指導要領の全面実施は確かに「3年と半年先」ですが, 現在の1・2年生の動きを具体的にイメージするとどうでしょう? 今の1・2年生児童にとって望ましい移り変わりは, 「30年度からの3・4年生で体験的な音声中心の外国語活動を行い, 32年度からの5・6年生で中学校英語につながる系統的な教科としての英語を学び始める」というものです。

つまり, 30年度からの移行措置の過ごし方が大事ということです。

こう考えると, 30年度の3・4年生学級担任の先生に「よろしく!」と任せきりにするのではなく, 学校全体として考え準備しておくことが大切だと思います。

次号では, このことをもう少し詳しく述べるため, 「英語教育の在り方に関する有識者会議報告(概要)」を使って説明をしたいと思います。(これは, 9月に厚真町で開催された英語教育研究大会において, 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 直山木綿子先生が講演された内容をもとに, 相馬が再構成してお伝えするものです。)